

## 1 自己紹介

皆さん、初めまして。

福岡市立博多工業高校・自動車工学科を1969年に卒業しました菊池と申します。

自動車工学科の当時の自慢は、学校敷地奥に広くて立派な「運転実習コース」があったことです。コースは、舗装こそされていませんでしたが、S字、クランク、車庫入れ、縦列駐車、さらに40kmが出せる直線道路などがありました。そのおかげで18歳になってすぐに受けた「普通自動車免許」の試験を一回でパスすることが出来て、高校生活最後の良き思い出になっています。

そして私の就職試験は、ANA全日空の航空機整備士という未開の地への挑戦でしたが、何とかパスして入社することが出来ました。

ANAは、格納庫における「定時整備」と空港における「運航整備」に大きく分かれています。

私自身、東京・代々木での新入社員訓練後、大阪・伊丹空港の「運航整備」に配属され、40歳まで22年間、早番・遅番・夜勤のシフト勤務と共に班長や管理職を経験しました。

私の会社人生における特徴的なことは、30歳前後にオーストラリア・シドニーとアメリカ・シアトルに2度の海外長期出張を、そして40歳代にフランス・パリとインド・ムンバイに海外駐在を5年ずつ経験することができました。

そして2001年日本に帰任、その年アメリカでの911テロ事件により航空需要が急激に落ち込み、会社が倒産の危機に陥ったために、翌年会社から出された早期退職制度にて「以前から私たち日本人が苦手の国際語・英会話を何とかしたい」との思いから退職を覚悟しました。

退職後2005年に福岡帰郷と同時に、九州国立博物館にて英語館内案内ボランティアを経験する中で、「国際語・英会話のもどかしさを克服するには」を模索し続けて…、

5年後の2010年、やっとの思いで、本書「英会話 Japa-Lish 日本語の英文法語順」を著作・出版することが出来ました。

同じ年の2010年還暦には、我が母校・博多工業高校から講演の依頼があり、「国際化」をテーマに講演を経験することができて、人生の良き思い出になっています。

さらに、2016年には『英会話スピーキング Japa-Lish/Kikuchi Method』として改定、出版本・電子書籍を発行すると共に、ホームページ「<http://japa-lish.net>」を立ち上げ、2020年にはリニューアルしました。これがその本書になりますが、後でご紹介します。

さて、講演のテーマは『国際化とは・私たち日本人に何が必要か』についてお話をさせていただきます。私が経験した海外出張・駐在の体験で知り得た『国際化とは』をご紹介することで、皆さんに少しでもお役に立てればと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

## 2 航空機整備士の業務について

本題に入る前に、航空機整備士の業務について、簡単に紹介させてください。

大阪・伊丹空港の「運航整備」は、朝7時から夜9時までは、飛行間の点検が主体になりますが、飛行中に生じた大きな不具合が日々数件ありますので、その都度、不具合処理班が登場することになり、事務所は騒がしくなると共に大忙しとなります。

また夜間においては、短期の定時整備作業、そして昼間の運航中に抱えていた数々の軽微な不具合処理やタイヤ交換作業などですが、もちろん大きな作業もあります。

例えば、皆さんもよくご存じの鳥衝突・バードストライクですが、外部点検でエンジンに入ると疑われた場合には、エンジン内部のタービン部分を内視鏡・ボアスコープによりckします。そこで見つかった、タービンブレードの損傷の大きさによっては、エンジン交換になります。そのエンジン交換作業で使う脚立や工具などは、とにかく大きなものばかりですので、多人数で長時間にわたり、終わったときにはへとへとになっています。

次に、それらの整備作業には「法的な確認行為」が必要になりますが、その背景についてお話をしましょう。

自動車と同じ「国家試験制度」で、「一等航空整備士」として、「機種毎の資格」になります。

入社後3年の実務経験後に、まずは航空局が行う「航空5教科」の試験に合格する必要がありますが、その中でも「空気力学」がとにかく難しかったことを覚えています。

「航空5教科」の試験に合格すると、日常業務から離れて、当時B727やB737などの機種毎の構造や機能に係る座学を受けることで、その機種全体のシステムを覚えることになります。

そして上司からの指示があり、機種ごとの国家試験を受けることになりますが、私の最初の試験はB727になりました。

まずは、その機種の全システムに関する筆記試験があります。

筆記試験に合格すれば、社内の試験管による口頭試験として、全システムに関しての質疑・応答で、各システムのあちこちを詳しく聞かれますが、何とか合格となりました。

口答試験に合格すれば、機体の専門訓練を羽田にて約1か月間受けることになります。

ここでは、実機のB727を使い、コックピット内での全システムの操作や、数々の不具合に対するトラブル・シューティングを覚えます。

さらにエンジンをスタートして、離陸時のテイクオフ・パワー操作、また急加速や急減速などの操作が出来るようになると共に、それらのデータ取りも出来るようになります。

その機体の専門訓練の最後には、航空局試験官による総合的な口頭試験がありますが、合格すると初めて、一等航空整備士の B727 機種毎のライセンスがもらえます。

さらに、社内で審査を受けて「確認整備士」として任命され、「法的な確認行為」が出来るようになります。

ANA の各航空機には「航空日誌」というのが搭載されています。

飛行中に発生した不具合は、まずパイロットがその内容を「航空日誌」に記入します。

そして、その横には整備士が処置内容を記入後、確認整備士としての署名をしますが、この署名がない限り、パイロットは機体を運航することができません。

また、夜間に行った数々の整備作業も同様に、「航空日誌」に記入後、確認整備士が署名をすることで、安全で万全な航空機を提供していることになります。

私自身、最初の B727 から、ロッキードのトライスター、B747 ジャンボ機、B767、そして B747-400 新鋭機まで、5 機種の確認整備士でした。

さて、航空会社と言えば、職場での英語ですが…、

「航空機整備」や「航空」に関わる膨大な「英語専門用語」を覚えるのが大変でした。

例えば、飛行制御装置はフライト・コントロール・システムで、そのシステムにはエルロン・フラップ・スポイラー、エレベーター・ラダーなどなど、部品名や工具類なども含めて、とにかく膨大な量になります。

新機種が導入される時には、機体の初期トラブルに対応するため、ボーイング社の技術者が数人、羽田空港と伊丹空港に数カ月にもわたり滞在します。

彼らが話す、専門用語だらけの英語を聞くのがまずは大変でしたし、彼らとの話しがとにかくしどろもどろだったことを思い出します。

### 3 国際化とは・私たち日本人に何が必要か

では、本題に入りましょう。

国際化とは、私たち日本人に必要なことは何でしょうか？

私自身、海外出張・駐在経験から、欧米人のいろいろな「文化」を知ることが出来ました。

その「文化」とは、辞書によると、「衣・食・住を始め、技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治などの生活を形成している様式と内容」となっています。

「文明」とほぼ同じ意味に用いられますが、欧米では「人間の精神的生活にかかわるものを文化」と呼び、「技術的発展のニュアンスが強い文明」と区別する、となっています。

その「人間の精神的生活にかかわる文化」において、欧米人の様々な言語の違いと共に、様々であるがゆえにビジネスに統一して使用している「国際語・英語と日本語の違い」を知ることが出来ました。

その国際語・英語は「主語+述語動詞・・・」から始まる明確な言語です。

例えば...

I must teach them English grammar every day.

直訳すれば...

私は 教えなければならない 彼らに 英文法を 毎日

「主語+述語動詞・・・」から始まる言語では、自分の言いたいことを先に言わなくてはなりません。また、yes/no がはっきりしていて、答えを曖昧にはしません。

欧米人は「自己表現」が必要不可欠で、うまく表現できないと人格を認めてもらえない、と言っても過言ではないと言われています。

そのため、小さいころから「あなたはどうか考えるのか」という対話式的実践学習があり、自分で考え・表現する習慣を身に付けさせています。

また、教育では意見交換や議論が主体で、分析的思考により物事の本質をとらえることを身に付ける、と言われています。

私自身、海外出張・駐在経験から、欧米人の「明確に表現する・相手に分かりやすい話を続ける」という文化の違い、いわゆる国際化を体験することができました。

例えば、フランスのレストランでは、企業人はもちろん・夫婦・恋人同士など、多くはコース料理などをオーダーしますが、夜 11 時頃にデザートが出てくるのが普通で、それまでは話を続ける、そして話を楽しむことが一般的だといわれています。

現実には、欧米人は「家庭・学校・社会」において「明確に表現する・相手に分かりやすい話をする」ことが生活であり人生である、というふうに関心を持ちました。

では、日本語の文法語順はどうでしょう。

先ほどの直訳の日本語を例にすると...

◆ 私は 毎日 英文法を 彼らに 教えなければならない／標準語の語順です  
さらに

◆ 毎日 英文法を 彼らに 私は 教えるつもりです

◆ 英文法を 彼らに 私は 毎日 教えてきました

◆ 彼らに 私は 毎日 英文法を 教えることができない

以上、述語動詞が最後に来るだけで、他の文節は助詞のおかげで自由です。

私自身、海外駐在を経験する中、「人間の精神的な生活にかかわる文化」において、私たち日本人は日本語の会話が国際化されていないことを知ることができました。

私たち日本人は、主語を省略したり、最後の述語動詞を言わないままに話が終わったり、さらに「はい・いいえ」がはっきりしない話も数多くあります。

また、TV ニュースの字幕スーパーでは、その人が話していない部分の主語や目的語などを( )にて追加しているのが数多く見られるようになりました。

さらに、社会では、大臣・議員の人格・資質を疑うような発言、説明責任と言いながら内容が乏しい説明、TVにて識者の見栄による一般的ではない「四字熟語」・「カタカナ英語」が混じる話、そして若い人の間では様々な意味不明語や短縮語の話が溢れていて、話の曖昧さや言葉の乱れが続いています。

すなわち、日本語の会話において「誰が・・・どうする」・「何が・・・どうである」などが曖昧なために、話の意味が理解できないままに終わっています。

「日本人なら察してほしいよな!」とのことですが、現代には通用しません。

そうです! 欧米人と共に私たち日本人も、普段、家庭では夫婦・親子・兄弟姉妹はもちろん、学校では先生や友達と、そして会社では上司の方や職場仲間と、さらに地域社会では様々な仲間たちと、「明確に表現する・相手に分かりやすい話をする」ことが、国際化として必要なことです。

「明確に表現する・相手に分かりやすい話をする」ことで、「人間の精神的な生活にかかわる文化」において、教育・環境などにより、個人として人格形成のもとになる「心の働き」を身に付けます。

その「心の働き」とは、いくつかあげてみますと...

1 偽りや飾りのない本当の気持ち、本心。

2 身についた感じ方や考え方の傾向、性分。

3 物事について考え、判断する働き、思慮・分別。

4 他人の状況を察していたわる気持ち、思いやり・情け。

5 あることをしようとする気持ち、意志。

6 物事に対する関心や興味。

7 物事の美しさやおもしろさのわかる感覚。

などです。

そして、その「心の働き」から、その人が生まれつき備えている「性質」や「能力」である「資質」が身に付きます。

「性質」とは、物事を巧みにこなすことができる生まれ持ったもので、その職業に適合するというような意味も含まれます。

そして「能力」とは、物事を成し遂げることができる力であり、教育や環境によって形成されるものです。

そうです! その人が生まれ持った「性質」や「能力」である「資質」は、個人として・社会人として、また日本人として、必ずや受け入れられると共に評価されることと確信します。

例えば、私の高校時代についてですが…、

この講演をするにあたって、私の高校生活を振り返えることで、その時に見えていたものや感じていたことなどを「資質」としてご紹介したいと思います。

皆さん一人一人が、社会を見据えて、何らかの参考にしていただければと思います。

私は、小さい頃から野球が好きでした。

当時、甲子園経験のある念願の博多工業高校に入学することが出来て、本当にうれしい思いと共に、野球で人生をとの思いがあったようです。

しかしながら、あちこちの中学から集まった、野球好きの人達は、私以上のとてつもないレベルでした。

ここに来て、見て、知って、そしてレベルの違いを悟って、入った年の夏休みにはやめました。会社人生で通用する体力を作り上げるために、という考えもありましたが、ともかくついていけないとの思いが強くてやめることにしました。

「今思えば」、そのレベルの違いとは二つありました。

一つは、硬球野球において、重い球を投げるための強靱な肩、速くて重い球を打つ強靱な足腰、そして速い打球について行ける素早い動き、いわゆる技術力の差でした。

もう一つは、その野球を続けていくという精神力の差でしたし、この精神力を持続させることも、並大抵ではないことを悟ったと思います。

さて、何かを悟って野球をやめたことで、学校生活に余裕が生まれて、先生方や仲間達とともかく話す機会が増えたことが、その後の人生を大きく変えるきっかけや動機になったのかなと思います。

ともかく、自分が勉強好きだったということに驚きました。

もちろん、勉強を続けるにも精神力が必要でしたが、これには何とか耐えることができましたし、持続させることができたということです。

人間の精神力というのは、現実には、いろいろないやなことにも遭遇しますが、楽しいと感じることがプラス思考になり、次々に生じるいやなことを克服してくれますし、長く続けることが出来るようになります。

私自身、クラスでは、2年生から成績が上位へあがりましたが、自分でもびっくりしました。

何か数学が得意だったようですが、このようなことに気づくこと自体が初めてでした。

そして、自動車のシステム学習、オーバーホール実習などなど、毎日がどんどん楽しくなっていたことを覚えています。

このようなことから、航空機整備士へという未開の地への挑戦が実現しました。

また、3年生になったころ英語に興味を持つようになりました。

当時テレビを見ると、識者の人たちによる「カタカナ英語」が頻繁に使われ始めていました。

話にいくつかの「カタカナ英語」が入ると、全体の話がわからなくなるので、ともかく悔しい思いをしていました。

その悔しい思いから、「カタカナ英語」を書き出し、辞書で調べてみたところ、全体の話がわかるようになりました。

おかげで、英語にも興味を持てるようになり、成績も上がりました。

このようなことから、ANAという海外展開企業への挑戦が実現しました。

そして、その後の会社人生と定年後の人生から、次のようなことを学びました。

すでにお話しましたが、欧米人は「自己表現」が必要不可欠で、うまく表現できないと人格を認めてもらえない、というようなことが日本社会でも普通になっています。

その「自己表現」とは、個人として・社会人として、「家庭・学校・社会」において「明確に表現する・相手に分かりやすい話をする」と共に、会話を続ける・会話を楽しむということです。

そうすることで、「心の働き」により形成された人格を認めもらうと共に、資質である性質と能力を確実に自分のものにしておくことで、必ずや社会に受け入れられると共に評価されることと確信します。

以上です。

## 4 曖昧な自分の思いを明確に表現する

では、「明確に表現する・相手に分かりやすい話をする」にはどうすればよいのでしょうか？


そうです！「主語+述語動詞・・・」で始まる明確な言語である「国際語・英語」を活用するということです。

すなわち、本書「Japa-Lish・日本語の英文法語順」を活用することで、曖昧な自分の思いを明確に表現するという実践訓練です。

本書の各例文は、次の3行で構成されています。

まずは Japa-Lish で／私は 教えなければならない 彼らに 英文法を 毎日←

次に英語が来て／I must teach them English grammar every day.

そして構文・語法にかかわる事項／ 主語+述語動詞+2つの目的語(誰に～、何を～)

本書・各例文の Japa-Lish は、英語と同じ「主語+述語動詞・・・」ですので、日本語の曖昧な話と違い、省略することができなくなります。

本書・各例文の実践では、Japa-Lish を←に従い、まず主語を読み、他の文節を右から左に最後の述語動詞までを読み上げることで「主語+述語動詞・・・」になりますので、日本語の話が明確になります。

さらに、本書・各例文は「英文法の主要な部分の構文・語法」を「話すための構文・語法」としてまとめ上げていますので、本書・各例文を実践することで、ステップ1～5の「話を作る・表現力」が身に付きます。

ステップ1 話の種類表現力

ステップ2 話の基本骨格表現力

ステップ3 話の基本骨格に修飾語を置く表現力

ステップ4 単文+対等節として話をつなぐ表現力

ステップ5 主節+従属節として話をつなぐ表現力

では、本書・各例文の Japa-Lish にて「話を作る・表現力」のいくつかを実践してみましょう。

ここでは、Japa-Lish が、どのように明確に表現され、相手に分かりやすい話になっているか、さらに普段の曖昧な日本語とどう違うのかを、チェックしながら聞いてください。

悠太は 来ないかもしれない ここに 今日←

Yuta may not come here today.

できますか 私は 借りる レンタカーを この近くで←

Can I borrow a rent-a-car near here?



何を しましたか あなたは ~食べる 昨日←

What did you eat yesterday?

(それは) です やさしい ~追加するのは 絵を 文書に←

It is easy to add pictures to the document.

私は 行くつもりです オーストラリアに ~目指すために プロゴルファーを←

I will go to Australia to aim for a professional golfer.

マリは ~した いくつかの間違いを←1、しかし 悠太は 笑わなかった 彼女を←2

Mari made some mistakes, but Yuta didn't laugh at her.

エリは ~話しました 私に ということを 悠太が ~会った その少女に 昨日←

Eri told me that Yuta had seen that girl yesterday.

ので あなたは 疲れている 今←1、あなたは ~取るほうが良い 少しの休息を←2

As you are tired now, you had better take a little rest.

以上、本書・各例文の Japa-Lish を実践することで「自分の思いが明確になる」と共に、「話すための構文・語法」のステップ1~5にて「話を作る・表現力」、すなわち「明確に表現する・相手に分かりやすい話をする」ということが身に付きます。

## 人の振り見て我が振り直せ

若い時には世間の多くを知りませんが、人生でのいろいろな失敗や成功から多くの事を学び成熟する、すなわち年齢と経験から知恵を学ぶと共に発想が豊かになるといわれています。

そのような年配の先輩や上司の方々のコミュニケーション現場をしっかりと見て・聞いて、自分がどう劣っていて・どうあれば良いかを学びます。

このことが「人の振り見て我が振り直せ」であり、具体的には次のような人達です。

会話では、生活・仕事・社会での話題を持ち出して話をする中、質問をする、感想を述べる、意見を言うなど、話が明確で自己表現力の豊かな人。

また、TVトーク番組にて、話が明確で自己表現力の豊かな人。

議論では、議題について互いに自分の説を述べ合い・論じ合う中、原点はどこにあるのか、基本はなんなのか、現状はどうなっているのか、データから比較をするとどうなのか、具体的にはどうなのかなどなど、分析的な思考により物事の本質をつかむ人。

また、TVトーク番組にて、いつも本質的な知恵や発想が豊かな会話力のある人。

そして、「人の振り見て我が振り直せ」を実践しながら、あなた自身がいろいろな場で、次のような実践をします。

会話では、生活・仕事・社会での話題を持ち出して話をする中、質問をする、感想を述べる、意見を言うなど、話が明確で自己表現力の豊かな日本語力を身に付けます。

また、TVトーク番組にて、TVに向かって、話が明確で自己表現力の豊かな人と会話してみるのも一つの方法です。

議論では、議題について互いに自分の説を述べ合い・論じ合う中、原点はどこにあるのか、基本はなんなのか、現状はどうなっているのか、データから比較をするとどうなのか、具体的にはどうなのかなどなど、分析的な思考を駆使して物事の本質をつかむ日本語力を身に付けます。

また、TVトーク番組にて、TVに向かって、いつも本質的な知恵や発想が豊かな人と議論してみるのも一つの方法です。

## 実践のポイント

日本人の国民性として、政治家や官僚は偉い人だ、会社社長・役員は役割がすごいので偉い人だ、大学教授などの肩書で識者としてテレビに出ているから偉い人だなど、このようなことが普通に言われています。

そのような偉い人たちと話しをする場があったとしても、自分なりの思い・考え・意見があったとしても、偉い人の前では物怖じしてしまい、思うように話が出来ません。

では、TVなどでよく見かける欧米人の学生や一般の人たちは、大統領や国会議員、会社社長や役員、そして有名俳優やタレントなどであれ、ともかく物おじせずに話をしています。

その考え方は、「人はそれぞれに地位・財産・才能など違いはあるが、それは人としての役割の違いであり、人としての上下関係を決めるものではない」、すなわち「社会における一人の人間として、同じ権利の下で平等感を持つことだ」と言われています。

私自身、海外駐在にて欧米人と接してきた中、なんとか人前での話において物おじすることなく、平常心で話をするできるようになりました。

この平常心は、ともかく精神的な余裕をもたらしてくれますので、初対面の人であれ、相手の話をしっかりと聞けるようになりますし、しっかりと考え・まとめた後に話をする事ができるようになります。

人としての平等感からくる平常心がいかに持てるかで、欧米人と同様に平等感のもとで物おじせずに話ができるようになるということです。

以上です。

## 5 海外出張・駐在奮闘記

さて、2度の海外出張と2度の海外駐在を経験しましたので、奮闘記としてご紹介させていただきます。

まず1978年、28歳の時に、オーストラリア・シドニーに、1ヶ月滞在しました。

ANA全日空はB747新機種導入の際に、航空機整備士の訓練をオーストラリア・カンタス航空へ依頼していて、20人学級の一人として、構造・機能の座学を受講しました。

「アメリカ英語」を勉強した私達にとって、例えば日曜日・サンデイがサンダイなど、いわゆる「イギリス英語」の発音にびっくりしましたし、また「数字英語」が出てくると発音がわからないため、何度も繰り返してもらったものでした。

次に1982年、32歳の時に、アメリカ・シアトルのボーイング社に、3ヶ月滞在しました。

シアトルの北には、ともかくどでかいボーイング社の製造工場があります。

そのボーイング社の工場では、ANAが購入したB747ジャンボ機1機毎に、航空局検査官による耐空検査があり、整備本部の検査員のひとりとして「製造過程検査」、「地上検査」、そして「飛行検査」を担当しました。

飛行検査、いわゆるフライト・テストは5時間ほどかかりましたが、100近くに及ぶ検査項目の一つ一つに合格することが、安全な航空機をお客様に提供することになります。

そのボーイング社の工場にて、そしてアパート生活にて、アメリカ人の大きな声と話しの速さに常に圧倒され続けました。

日本人の多くが学ぶアメリカ英語ですが、会話についていけないと無視されたり、話が下手だとバカにされたりで、何でもはっきりと言うアメリカ人だということがわかりました。

そして、2度の海外駐在を経験しました。

まず1990年、「成田空港」と「フランス・パリのシャルル・ド・ゴール空港」を結ぶ路線開設のために、整備マネージャーとして、40歳から5年間駐在しました。

現地の航空会社・エアフランスへの航空機整備の委託契約になります。

シャルル・ド・ゴール空港内に、私自身がANA整備事務所を立ち上げ、エアフランスの整備士に対する訓練や、日本から送られてきた部品類を配置するなど、準備に半年かかりました。

皆さんもご存じのように、フランスはイギリスと共に歴史のある大国で、フランス語もカナダやアフリカなど、多くの国に採用されています。

そのフランス人が話す、「鼻に抜ける発音の英語」がわからず、何度も聞き返しては嫌がられたものでした。

パリは、冬が10月から翌年5月まで続き、真冬は-10度が普通になる寒いところです。住まいは石造りのアパートで古いのですが、唯一床暖房が充実していて、私達には新しい感覚でしたし、大変ありがたいものだと感じました。夏は夜10時頃まで明るいので、この時期のパリは、世界中からやって来た観光客で賑わっています。

次に1996年、「関西空港」と「インド・ムンバイ空港」を結ぶ路線開設で、整備マネージャーそして支店長として、46歳から5年間駐在しました。

ムンバイは以前ボンベイと呼ばれていた商業都市で、インド地図上、三角形の西側中間にあり、アラビア海に面した街で、常夏です。

ここでは、空港事務所の立ち上げだけではなく、後に市内支店事務所で、支店長として現地採用のインド人営業マネージャーと貨物マネージャーとの販売促進活動や、営業本部への活動・実績の報告など、大変な思いをしながら、何とか旅客・貨物営業をこなすことが出来ました。

さて、インド国内にはヒンズー言語が数多くあり、地方へ行くとお互いの言葉が全く通じないそうです。

例えば、インド・ルピーの紙幣には、16もの言語で金額を表しています。

このような混乱を避けるために、英語を統一して話すとの政策があり、小学校から国語と英語は同時スタートします。

したがって英語が大変上手で、現地採用のスタッフ全ての人たちは、スタッフ同士いつも英語で話をしていきます。

彼らの口ごもり発音と、アメリカ人以上の喋りの速さに慣れるのが大変でしたが、彼らが話す高度な英語によって、私の英会話力が鍛えられたことを感謝しています。

以上です。

## 6 国際化そして国際人として

では、国際化そして国際人として、何が必要でしょうか。

今まで海外出張・駐在における奮闘記についてお話してきましたが、上手く英会話をこなしてきたように感じていただけたかと思います、  
しかしながら、そう上手くいかないのが私たち日本人で、もちろん私も全く同様に、生活や仕事での英会話スピーキングにおいて、どうしても「もどかしさ」が付きまといました。

その「もどかしさ」とは…

場面集の暗記によるスピーキングでは、多くの文例を覚えるには・覚えておくにはどうしても限界があり、現実には「こういう時、英語でどう言えば良かったかな?」との実状で、話はすぐに終わり続きませんでしたし、月日が経つとともに覚えたものをどんどん忘れていきました。  
だからこそ、**構文・語法を身に付けて、自分の思いを英語にして話をするしかありません!**

しかしながら、自分の思いを英語にする時に、語順の違いによりどうしても混乱が生じます。結果、話の途中でやめたり、最初から話をあきらめたりして、話は続きません。

また、普段の日本語会話では、主語や最後の述語動詞が曖昧なために、自分の思いがはっきりとイメージしきれいていません。結果、話は2~3の英単語だけになってしまい、相手に話が通じません。

**海外駐在で経験した英会話スピーキングの「もどかしさ」を克服。国際化の今、自分の思いを英語にする・Japa-Liishによる「現実的なスピーキング」をお勧めします!**

Japa-Liishによる「現実的な英会話スピーキング」とは

- ◆ 日本語のまま「主語+述語動詞…」にする方法を発案  
自分の思いが明確になり、混乱なく英語にします!
- ◆ 大変わかりやすい「話すための構文・語法」を考案  
話を作る・表現力を身に付け、英語にして話を続けます!  
話にする・構文力を身に付け、相手に通じる英語にします!

**国際語・英会話スピーキングにおいて**

日本人として信頼を得るためには、スピーディーな会話は必要なく物おじせずに少し時間を掛けてでも、自分の思いを明確にした上で英語にして話を続ける・相手に通じる英語にする  
「現実的な英会話スピーキング」を身に付けます!

さきほど、本書・各例文の Japa-Lish にて「自分の思いが明確になる」と共に「話を作る・表現力」のいくつかを実践しましたが、ここからは、Japa-Lish をイメージしながら英語にする実践を、そしてブックマークでは構文・語法に係わる事項を学習することで、「話にする・構文力」が身に付きます。

ステップ1 話の種類を選択する

ステップ2-1 動詞・助動詞・否定を使いこなす

ステップ2-2 話の基本骨格を使いこなす

ステップ3 話の基本骨格に修飾語を置く

ステップ4 単文+対等節として話をつなぐ

ステップ5 主節+従属節として話をつなぐ

では、本書・各例文にて、「話を作る・表現力」と共に「話にする・構文力」のいくつかを実践してみましょう。

悠太は 来ないかもしれない ここに 今日←

Yuta may not come here today.

☞ 否定文- 助動詞の否定形

できますか 私は 借りる レンタカーを この近くで←

Can I borrow a rent-a-car near here?

☞ 一般疑問文 - 助動詞の疑問形

何を しましたか あなたは ~食べる 昨日←

What did you eat yesterday?

☞ 疑問詞疑問文 - 疑問詞が目的語、過去形

(それは) です やさしい ~追加するのは 絵を 文書に←

It is easy to add pictures to the document.

☞ It ~ to 構文 - be + 形容詞

私は 行くつもりです オーストラリアに ~目指すために プロゴルファーを←

I will go to Australia to aim for a pro golfer.

☞ 修飾語の to 不定詞用法(単文の後ろで追加説明)・単文 - 未来形

マリは ~した いくつかの間違いを←1、しかし 悠太は 笑わなかった 彼女を←2

Mari made some mistakes, but Yuta didn't laugh at her.

☞ 対等節/対等接続詞 (but) - 過去形

エリは ~話しました 私に ということを 悠太が ~会った その少女に きのう←  
Eri told me that Yuta had seen that girl yesterday.

㊦ 従属節/名詞節の that 用法 - 主節/過去形・従属節/過去完了形

ので あなたは 疲れている 今←1、あなたは ~取るほうが良い 少しの休息を←2  
As you are tired now, you had better take a little rest.

㊦ 従属節/従属接続詞(As…) - 現在形

実践は以上です。

繰り返しになりますが、国際化として、「家庭・学校・社会」において「明確に表現する・相手に分かりやすい日本語の話をする」を身に付けることで…、

そして、国際人として、自分の思いを英語にする・Japa-Lish による「現実的な英会話スピーキング」を身に付けることで…

学生さんはホームステイ・語学研修・国際交流・留学にて、生涯学習の方は地域の国際交流・海外旅行にて、そして海外展開企業にて、物おじすることなく相手に通じる話を続けることができます。

皆さんの今後において、私の話がお役に立つことを願いますと共に、国際化そして国際人を目指していただければ、大変うれしく思います。

ありがとうございました。